

施策コード	3-1	担当課	危機管理課/福祉課/長寿課/水道課/下水道課/土木管理課
分野別計画	第3章 豊かな自然とともに安心して住み続けられるまちづくり 安全・安心		
基本施策名	1 防災・減災		

1 定量評価

	評価の観点				
	①目標指標の達成度、及び達成度に伴う改善策	②事業の成果	③事業の効率化	④課題認識及び解決への取組	⑤今後の方向性
A委員	3	4	3	3	3
B委員	3	3	3	3	3
C委員	3	4	3	3	3
D委員	3	3	3	2	2
E委員	3	2	3	3	3
F委員	3	3	3	3	3
G委員	2	3	4	3	3
H委員	3	4	4	4	3
合計	2.9	3.3	3.3	3.0	2.9

※4段階評価 4.適正 3.おおむね適正 2.改善の余地あり 1.抜本的改革必要

2 定性評価

評価の観点	評価コメント
①目標指標の達成度及び達成度に伴う改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・災害協定締結数は順調に増加している一方で、緊急重要情報メール配信サービス登録者数が増加していない。しかし、メール配信サービスではなく市公式LINEによる緊急情報の受信登録者数は増加しており問題ない。 ・災害協定締結数は年々増加しており概ね良い。 ・災害協定締結数に関しては、順調な推移をしており、適正であると考え。協定が形だけのものにならないように引き続きお願いします。 ・災害協定では、災害時に地域への貢献は重要で有り難い。是非とも市民へ協定内容を含めリストを周知して頂きたい。 ・メール配信については、高齢者と若者にわかりやすい情報発信の仕方を検討しては。 ・市公式LINEへ切り替える市民が多い。 ・防災情報、災害メニューのみのLINEアカウントや蒲郡市版防災アプリなどがあるともっと使いやすくなると思う。小中学校用の連絡はアプリ化されているようなので、公民館LINEなども導入が進むと地域ごとの連絡が取りやすい。 ・緊急・重要情報メール配信サービス登録者数に関しては実現不可とのことなので、LINEやアプリなど別の指標を考えていくべきかと思う。 ・防災訓練について、参加者や数値などの実績が確認できなかった。一人ひとりの意識向上、訓練が大切だと思うので、力を入れて目標数値を出すべきだと感じた。

<p>②事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民協働の取組が行われており、地区防災計画策定を進めていて良い。全地区での策定に向けて引き続き働きかけを。 ・各事業滞りなく運営、開催されている。 ・十分な成果だと思う。 ・防災セミナー等の継続は重要で、その中で地区防災計画等主体的に活動している方々の課題や意見を取り入れる事を期待したい。他地域経験者との交流等を進めてはどうか。課題認識や優先順位等市民同士が直接会う事で具体的なアイデアも期待される。 ・ハザードマップが小中学校や地域防災教室で活用されている事は素晴らしい啓発。想定を超える事や予期せぬ事態もあるため、自ら書き加えられる工夫や近隣で助け合える工夫も期待したい。 ・市民総ぐるみ防災訓練、自主防災リーダー研修会など市民を巻き込んで活動しているのは評価できると思う。 ・防災ラジオのデジタル化等の取組は、実際に市民からも聞き取りやすくなったと意見もいただけている。大災害時の停電時にどう市民への伝達を考えるか？二重三重のバックアップを市民と共有願いたい。 ・各地区で行われている防災訓練の内容のマンネリ化防止と役職参加者に加えて一般市民にも多く参加してもらえると地区の防災力の向上に繋がる。役職・PTA・保育園の役員に知り合いへの声掛けをお願いし、ペット防災訓練はもっと周知が必要。 ・ブロック堀等の対策では、地区防災計画で市民による危険個所の調査等を項目化しトータルの課題規模と照らし合わせて対応の多様化を市民と一緒に検討願いたい。 ・色々な事業を実施している。ブロック塀撤去事業の件数が下がっているのでPRを。危険個所住宅も分かっていると思うので、歩行者の通りが多い危険個所は特に撤去出来るようにしたい。 ・主要事業の実績を見ると、すごく力を入れて事業を行っているように見受けられた。ブロック塀の問題や無線の更新などの、ハード面だけではなく、市民の意識の向上などソフト面でも力を入れて欲しい。 ・市民の多くのご意見・要望を聞くことは大変重要な事でありたくさんの方々の労力を費やしていただいている。更に重要なのは「誰がやるか」で、対応される方々は多くの要望に溺れてしまう状況も感じられ、地域コミュニティからのなり手不足が一層深刻化も懸念される。いかに皆様の負担感増大化を抑え参画者を増やすか。地域コミュニティと行政部署が連携してステークホルダーを増やす長期戦略を期待する。 ・訓練等は繰り返し取り組み、身体で覚えていくことが重要かと思うので、引き続きお願いしたい。参加することで意識の変化に繋がっていると思うので、参加者を増やすための取組を。
<p>③事業の効率化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総代への負担が大きいと感じた。 ・地域の防災力向上のための研修会、防災訓練の参加者の固定（役付きの方が参加する）、高齢化、内容のマンネリ化が懸念される。研修会や防災訓練へ多世代が参加できる工夫と準備・運営の負担軽減策を講じる必要がある。 ・おおむね適正。 ・防災メールや防災LINEがあるが、メールは見るが、LINEは情報が多くスルーしてしまう。防災アプリを、別に作ったほうが良い。 ・防災情報災害メニューのみのLINEアカウントがあると使いやすい。公民館LINEアカウントを導入してほしい。小江公民館で使っている。 ・市のホームページを定期的に見直すなど知りたい情報に早く辿り着けるように工夫が必要だと思う。 ・適正であると考えている。費用対効果の高い事業を引き続きお願いしたい。

<p>④課題認識及び 解決への取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良いと思う。 ・緊急重要情報の多言語配信（タガログ語配信準備中）、障がいを持つ人やジェンダーに配慮した避難所運営が今後の課題。市役所内で前述の課題を担当する協働まちづくり課や福祉課などとの横の連携を一層はかることが望まれる。 ・市民が分かりやすい情報発信を。 ・外国人や認知症や障がいのある方、ジェンダー、認知症・女性の性被害など過去に災害があったところで課題となっているので、特に子ども、女性の性被害などはあってはならないので慎重に取り組みたい。 ・地区役員のみでなく、一般の方を巻き込む工夫が必要。 ・令和7年7月の災害対策基本法等の一部改正あり。一日2食→3食に増やす必要。 ・家庭での備蓄、ローリングストックなど図や絵を使って分かりやすいものなどでもっと情報発信してほしい。 ・適正であると考え。少しでも市民の生命・財産を守っていける取組を引き続きお願いします。
<p>⑤今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良いと思う。 ・防災における新しい課題（ペット同伴避難、緊急重要情報の多言語配信、各種交付金）にも積極的に取り組んでおり素晴らしい。減災・防災の取組の充実のため、減災・防災に協力する市民が増加するよう、引き続き取り組むことが期待される。 ・現状の施策でおおむね良い。 ・いろいろな分野の協力者を増やす。各種企業、福祉団体、子ども支援団体などと連携して、避難所運営を考えていきたい。自分の地域は自分達で守り行動出来る方を増やしていく。 ・愛知工科大学、ARで水害を疑似体験なども活用して防災意識を高めるなど、近隣の小中高校も一緒に活動していけるとよい。 ・協力者をいかに増やしていくことが大事。ボランティア・NPO受入。 ・市民の住宅における防災機能を高める動きは必要な取組かと思う。しかしながら、目標指数にある緊急・重要情報が市民にしっかり届けられる状態を早期に整える必要があると思うので、防災・減災の啓発を行う中でしっかりとこちらの指数も伸ばしていただきたい。

施策コード	3-3	担当課	環境清掃課/下水道課
分野別計画	第3章 豊かな自然とともに安心して住み続けられるまちづくり 安全・安心		
基本施策名	3 環境保全・生活衛生		

1 定量評価

	評価の観点				
	①目標指標の達成度、及び達成度に伴う改善策	②事業の成果	③事業の効率化	④課題認識及び解決への取組	⑤今後の方向性
A委員	4	4	3	3	3
B委員	3	4	3	3	4
C委員	3	4	3	3	2
D委員	3	3	3	2	2
E委員	4	3	3	3	3
F委員	3	3	3	3	3
G委員	2	3	4	2	3
H委員	3	4	4	4	3
合計	3.1	3.5	3.3	2.9	2.9

※4段階評価 4.適正 3.おおむね適正 2.改善の余地あり 1.抜本的改革必要

2 定性評価

評価の観点	評価コメント
①目標指標の達成度及び達成度に伴う改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、530運動実践活動参加者数が減少したが、その他の指標は目標を達成しており問題ない。 ・環境美化については、市民に認知され順調に進んでいる。 ・市民からの苦情に敏速に対応していただいている。野焼きがなげいけないのかなど各地区で出前講座を開き理解を深めるなどの周知を。 ・公害等相談対応、530運動、生活排水処理、海岸漂着物回収など指標の達成はどれも評価できる。 ・苦情や困りごと相談など市民が利用しやすい雰囲気作りが大切。 ・とても良い取組。めざすところは公害や海岸漂着物等を限りなく少なくしていくところかと思うので、引き続き根本原因を分析してアプローチしていける取組を。

<p>②事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民協働の取組がとても良い。 ・地域猫支援をしっかりと行っており良い。 ・市民から寄せられた苦情への対応も速く適切。海岸漂着物回収・処理量は、台風などの影響により増減があるが補助金などをうまく活用し対応している。 ・市内のごみ問題を理解されて、美化に進んでいると思う。 ・年間を通した530運動145団体実施は素晴らしい。三河湾環境チャレンジ環境学習も継続し後世に引き継いでいる。 ・530運動では年間を通して活動されている方々が145団体実施されている事がわかり、こうした活動にスポットライトが当たる企画を期待する。 ・竹島のクリーンキャンペーン、三河湾環境チャレンジ、里山自然学習会など定着しており評価できる。 ・適正であると思う。引き続き市民の生活環境の保全をお願いしたい。 ・動物愛護では、ペットを家族としてみる家庭も増えており、ペット防災訓練への取組も地域から発生していると聞く。ボトムアップ的な取組と政策的な取組が連携していく事に期待する。 ・三河湾環境再生や生物多様性では、東三河など広域的なネットワークにて三谷水産高校の活躍や漁業協同組合による植樹などが聞かれる。行政が直接行う事業だけではなく、連携やバックアップが必要となってくる。
<p>③事業の効率化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの苦情に対応するのは大変だと思う。 ・530運動の参加者を増やし、市内の道路や海岸の美化につなげ、協力者を増やしていく工夫と対策が必要である。行政による空き家対策や公害、野犬や地域猫対策には限界があるため、市民との連携を強化する必要がある。 ・まちなみクリーンアップ作戦等の活動の全市的な周知を。 ・里山自然観察会の活動報告や、海と森の環境講演会の学習後の生徒の声をHPやSNS等で参加できなかった方にも周知を。 ・イベントが多いまちである事を活かして、各イベントなどでゴミ拾いなどを催事化し、利用者も参画する機会を各主催者に求めてはどうか。 ・クリーンアップキャンペーンの時だけではなく、竹島や港、駅、学校などで開催されるイベントとセットで530運動も一緒に行うと良い。 ・高齢化に伴って、空き家、空き地問題も増えつつあるので、今後も市やシルバー人材センター、社会福祉協議会などと連携して早期対応できるように工夫が必要。 ・適正であると思う。引き続き費用対効果の高い事業推進をお願いしたい。

<p>④課題認識及び 解決への取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民からの苦情・要望に素早く対応しており関心した。 ・環境美化・環境保全に関心のない世代へのアプローチをどうするか、企業や教育機関、市民団体などと連携していくことを模索し、海と山、市内が美しい蒲郡を目指していくことを期待する。 ・5月のクリーンキャンペーンは周知されているが、9月等も積極的なPRを。 ・530運動参加者を小・中・高等学校に協力して頂くと20～30代の関心の無い世代も巻き込める。 ・関心のない世代をアプローチしていくことは非常に大変かと思うが、530運動以外にも市内事業者へ環境意識を高められる取組があると良いと感じる。引き続き魅力ある蒲郡市の自然を維持できるための取組をお願いしたい。 ・野犬対策、地域猫に対する補助金あり（団体、個人）。 ・近年あさがとれなくなっており、潮干狩りもなかなか難しい状況なので、環境再生のためにできることは継続してほしい。
<p>⑤今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良いと思う。 ・市内小学校での環境学習を進めることに加え、関心のない世代へのアプローチをサーキュラシティ推進とともに取り組んでほしい。 ・市内団体等への働きかけを。 ・より一層市民に協力を仰ぎ自然環境を守り後世に繋げていく。小中学生・高校生・大学生・一般市民に環境学習を行う。 ・530運動参加者が増えるような工夫がほしい。 ・海と山のある市に誇りを持っている市民が多いので、今後も環境学習など続けてほしい。 ・ボランティア休暇など取りやすい雰囲気作りができるとうい。 ・関心のない世代へのアプローチについて、「やらされる」のではなく「やらなければならない」と主体的に行動できるような取組を期待したい。

施策コード	4-1	担当課	観光まちづくり課
分野別計画	第4章 にぎわいと元気あふれるまちづくり 産業		
基本施策名	1 観光		

1 定量評価

	評価の観点				
	①目標指標の達成度、及び達成度に伴う改善策	②事業の成果	③事業の効率化	④課題認識及び解決への取組	⑤今後の方向性
A委員	3	3	3	3	3
B委員	3	3	3	2	2
C委員	4	4	3	3	3
D委員	2	3	3	2	2
E委員	3	3	2	3	3
F委員	3	3	3	3	3
G委員	3	3	3	4	4
H委員	3	4	4	3	3
合計	3.0	3.3	3.0	2.9	2.9

※4段階評価 4.適正 3.おおむね適正 2.改善の余地あり 1.抜本的改革必要

2 定性評価

評価の観点	評価コメント
<p>①目標指標の達成度及び達成度に伴う改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような観光地を目指すのか、大局的なビジョンが見えない。観光計画を理念のレベルから作り変える必要があると思う。 ・ 英語のボランティアガイドの育成・活用と、それによるインバウンド観光客の誘引について詳しく聞きたかった。 ・ 2026年のアジア・アジアパラ大会もアピールする良い機会であるので、計画策定と関係各所との連携をより密にするようお願いしたい。 <p>観光客数がコロナ禍で減少したが、増加に向かっており元に戻りつつあるのか。近隣都市との協力も関係しているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍前の観光客数には、徐々に戻りつつあるが、団体客から個人へ増加傾向との事で、より体験+宿泊で、観光客を呼び込む。せっかく海と山が近いので、立地を生かしたい。ユニバーサルツーリズムの実現は、観光の魅力を一層引き立てる。 ・ 新たに開始した企画もあるが、継続している事業もあり、これまでの成果を検討したうえで目標の達成度合いを確認し示していただきたい。更なる目標設定の工程が見たかった。 ・ MIKAWA de遊び100も定着している。体験型プログラムを気軽に予約して楽しめるようになっていて評価できる。期間は10月から3月なので、その他の期間は準備期間だと思うが、将来的にはその他の季節（春・夏）でも実施してみてもどうか。 ・ 体験プログラムが年々参加者が増えているのは認知が広がってきたことが伺える。R7に参加者目標を減らしているのが疑問だった。参加者を増やしながらか、市外からの参加者を増やす努力が必要。 ・ 体験プログラムに関しては、大幅に目標値を超えていることに市としての取組に力を入れていることが見受けられる。「また行きたい」と思えるプログラムの構築を引き続きお願いしたい。 ・ 観光客数については、目標値との乖離があるので観光人材などの既存の資源を活かし、さらなる達成に向けての取組をお願いしたい。
<p>②事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ MIKAWA de遊び100は成果が出ているが、新たに観光客を呼び込むという観点で新しいプログラム作りが必要。 ・ コロナ禍により観光客数が減少したところから徐々に回復している点、体験プログラム数の増加と満足度の向上が素晴らしい。 ・ ボランティアガイドの育成で観光案内も充実している。 ・ 関係者を増やす取組ではみかんプロジェクトなどは新たな展開として感じられたが、それをどこにつなげてどう活かすかが成果になってくる。 ・ 徐々に観光客増加。各種コンシェルジュも増加。ロケ地勧誘。観光協会のSNS魅力発信など成果が上がっているが、もっと上手く活用する。市民も参加し盛り上げていく。 ・ 深海魚を食べたくて蒲郡に移住してきた方がいて、実際に蒲郡での体験やPRが移住やりピーターとして定期的に訪れることにつながっている。 ・ 体験プログラムの参加者が増えているのは素晴らしいことだと思う。観光客数は今後、改善していく必要があるかと思う。 ・ コンシェルジュなど、市民が観光に関われるような仕組みができており、一定数の方々は参画に充実感を得られているのが見受けられる。今後は、コンシェルジュの方たちの活躍の場をもっと広げるとともに、関係団体を巻き込みながら全市で取組を進めていくことを期待。

<p>③事業の効率化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種取組が素晴らしい一方で、イベントと宿泊施設、関係者との連携や情報発信がどこまでできているか不明だった。特にSNSによる国内外の情報発信について注力する必要があると思う。それにより取組の成果が可視化されていくと思われる。 ・外部への情報発信ができていますのでより広めていきたい。 ・多くの誘客に向けた取組を進められており、大変な作業と感じる。観光協会の取組と観光まちづくり課の取組など役割分担がもう少し示されると分かりやすかった。 ・体験プログラムやおもてなしコンシェルジュ、蒲郡みかん祭り、みかんコンシェルジュ・キッズコンシェルジュの活躍の場を増やす。観光客が、「また来たいと思いコンシェルジュが支えて良かった。」と実感出来るようにする。 ・外国人向けに英語ガイド育成事業（竹島周辺ガイド）も継続してほしい ・ポケットーク（翻訳機）の購入費用補助などあるとよいと思う（店舗、個人事業者向け）。英語だけでなく、中国語その他の言語にも対応可能。 ・挨拶や接客に使える表現など教えてもらえるような勉強会などがあるといい。 ・効率的なSNSの活用による発信やボランティアや旅館、旅行会社との連携が必要。 ・適正であると考えます。名鉄線に関しては、予算も多くついておりますので、観光客数の増加に繋げていただけたらと思う。
<p>④課題認識及び解決への取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、国内観光客の高齢化やアジア圏の観光客数が頭打ちになることが想定される。誰でも楽しめる観光地としていく環境整備と、ヨーロッパ圏へのPRを進めていくことを検討してほしい。 ・コンシェルジュの活動場所の確保、周知をしつつあり。 ・コンシェルジュや観光ボランティアを増やす努力は素晴らしいが、観光事業者側の取組などが見えにくかった。連携やバックアップなどに期待したい。また、長期的な戦略として情報発信だけでなく受け入れ対応の充実、連携の工夫も期待したい。 ・蒲郡市観光ガイド英語ガイド育成講座の実施で、今後アジアアジアパラで、活躍が出来る。手話で竹島の観光ガイド出来ることを観光客に周知を。 ・ヨガなどのイベントを開催しても、市内からの人が多いように感じる。近隣の市外からも参加しやすい工夫が必要。 ・蒲郡の魅力の発信、行きたいと思わせる見せ方が必要かと思う。またインバウンド需要を取り込む活動をしているという話を聞いて、受け入れ態勢の準備が緊急に必要なと思う。 ・おおむね適正だと考えるが、統計データを活かすことはもちろんのこと、観光産業が持続的に取組を進めていけるように若手ガイドの育成などをしながら、客層の幅を広げるなど観光地としての知名度向上等に繋げていただきたい。

⑤今後の方向性

インバウンド需要を伸ばす方策が必要。団体客だけでなく個人グループ客で長く滞在してもらえようなプログラム、人材育成をしてほしい。

- ・宿泊施設や飲食店なども含めて高齢者や障がいをもつ方や外国人観光客が楽しめる施設整備と接客する人材育成をしていかなければならない。世界の好事例から学び、特産品や温泉を活かし人と環境にやさしい観光地を目指してほしい。

- ・国道23号バイパスの全線開通に伴い県内により多くの情報発信ができそう。

- ・魅力があり選ばれるまちを目指す中で、交流時代を想定した市外の多様なコミュニティとの連携も必要性が高まると感じる。サービスの提供や発信だけでなく交流や連携による行動の伴った展開を探り、5年・10年後など長期的視点にたった土台づくりの検討を期待したい。

- ・蒲郡みかん、深海魚の美味しさアピール。日帰りではなく宿泊して頂けるように魅力をアピールする。ヨットや海のアクティビティ（カヌー・サップ）や山のさがらの森・スパ・サウナブームを生かしSNS発信で、高付加価値化する。

- ・以前、期間限定で実施された蒲郡～鳥羽間のフェリーや、伊良湖～鳥羽間のフェリーに寄港してもらう機会を作って新たな観光につなげるなど、検討してみてもいい。

- ・ラグーナでの音楽や商業フェスなどが定着してきているので、市としてもイベント時だけでなく、「蒲郡みかん」「深海魚」「温泉」など、地域と一体となって盛り上げられるといい。

- ・蒲郡市の取組と同時に、市民や旅館の協力を仰ぎながら、受け入れ態勢を構築。蒲郡の恵まれた環境を活用し、地域一体で持続的な観光基盤の形成。

- ・既存の取組に加えて、新しい視点を取り入れながら観光地として一層の発展を期待したい。

施策コード	4-2	担当課	産業政策課
分野別計画	第4章 にぎわいと元気あふれるまちづくり 産業		
基本施策名	2 商業・サービス業		

1 定量評価

	評価の観点				
	①目標指標の達成度、及び達成度に伴う改善策	②事業の成果	③事業の効率化	④課題認識及び解決への取組	⑤今後の方向性
A委員	3	3	3	3	3
B委員	3	3	3	2	2
C委員	3	3	3	3	3
D委員	2	3	3	2	2
E委員	2	2	2	3	2
F委員	3	3	3	3	3
G委員	2	2	2	2	3
H委員	3	3	4	3	3
合計	2.6	2.8	2.9	2.6	2.6

※4段階評価 4.適正 3.おおむね適正 2.改善の余地あり 1.抜本的改革必要

2 定性評価

評価の観点	評価コメント
<p>①目標指標の達成度及び達成度に伴う改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商業の衰退が続く中で市として、事業者として、どう取り組むのか方向性がよくわからない ・人口減少する中で全体として努力していることが伺える。「卸・小売業販売額指標」など目標値より減少する評価項目だけでなく、ごりやく市やその他の良い取組を積極的に評価できる新たな指標も立てていただきたい。 ・ごりやく市は人数は横ばいであるが、にぎわいがあり良い。 ・卸・小売業販売額指標は、5年に一度ですが、商工会議所データで-11%など人口も減り高齢化も進む中後継者不足等仕方がないところもあるが、商工会議所の経営セミナー強化サポート充実を。 ・みかんの出荷金額は良いとの事なので、みかん製品を増やす。 ・2004年9月の第1回から約20年続のごりやく市。子どもの成長とともに、親子で参加できるイベントも多く、市民に定着して街に活気を与えてきた点で評価できる。高齢化から新しい実行委員会メンバーへの交代や新しく創業する人の参入など、形を変えながら引き継いで欲しい。 ・商店街の魅力を伝えるのが難しい時代の中、ごりやく市が長年ごりやく市を続けるのは大変なことだと思う。しかし、以前に比べると広報があまりされていないように見える。広報をもっと積極的にする必要がある。 ・卸・小売業年間商品販売額が減少するとのことで、今後改善の見込みが立てづらいつころかと思いますが、創業者を増やすことでにぎわいにつながるのかなどの効果を見極めながら検討していただけるとよい。
<p>②事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ごりやく市は新たな担い手が出てきて良い方向に向かっている。イベントをどう日常的な商店街の活性化につなげるかの作戦が必要。 ・ものづくり産業やそれにかかる事業継承に注力しており、その成果は出ていると思われる。商工会議所との連携を一層はかっていただきたい。 ・商工会議所等の協力のもと十分できている。 ・ごりやく市の受け継ぎが始まる状況は、多くの関係者の皆様の支援や関わりのおかげだと感じる。その一方で新規出店の補助金は1件で実態との誤差を感じる。実態調査を直接されてはどうか。 ・福寿稲荷ごりやく市に若手20～30代の参加増は、子どもを巻き込み人出は増えている。子ども商店街など新しい企画も良い。ちゃらばこやキッズダンス・太鼓の出演もあり賑やかになっている。中学生・高校生にも出店してもらおう。 ・年6回～3回に回数を減らしても人出数は毎年4千人くらいあるので、子どもたちを巻き込んで色々な世代が楽しめるイベントの形で集客アップを図っている。 ・今年度、『がまごおり事業承継ネットワーク「かけはし」』設立するなど、体制を整えつつあることは評価できる。 ・蒲郡の産業の認知度は市内では広がってきているものの、市外の方に聞くとあまり広がっていないように思う。販売額もそれに類似しているように思う。 ・中小企業や創業者への体制は手厚くなっていると感じる。11月のごりやく市で小学生の子ども商店などによる商売体験や創業に至るまでのノウハウを与えるなど、未来の創業者を育てる取組も充実させていただきたいと思う。

<p>③事業の効率化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ごりやく市の運営が若手へ継承され発展のきざしが見える一方、商店街は空き店舗が多い。小規模事業や観光客向けの事業を育てていくことも視野に入れていただきたい。 ・セミナー、相談場所へ誰でも参加できるようにしたい。 ・マッチングも必要性があるが、興味や関心者が参加しやすいサロンやコミュニティの設置が必要と思われる。出店経験者などに参画を求め支援施策にもアドバイザーなどで参画いただいてはどうか。出店や創業の授業を社会人講座や学校への展開するとよい。 ・集客アップする。シャッターが、閉まっている店が多いので、空き店舗活用・アートギャラリーや蒲郡みかんミュージアムをつくる。三河木綿の展示販売体験などシャッターを開け活性化する。 ・みらいキャンバスプロジェクトで、駅周辺の滞在型施設など、市民も一緒に使える駅ビルの早期実現に期待したい。イベントのついでに、寄りたくなる図書館などがあると長時間滞在してもらえる。 ・まず市内から愛知県へ、そして全国へ、蒲郡の産業を発信していくことが必要かと思う。産業についてもごりやく市に関しても、SNSの発信を強化することが効果的だと思う。 ・適正であると思う。適正な事業に適正なりソースの提供をお願いします。
<p>④課題認識及び 解決への取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前商店街やみらいキャンバスを含めた10年後の将来構想が把握できなかった。中長期的視点を市役所や関係各所が持つように総合計画や各種計画に盛り込んでほしい。 ・子どもが多く参加できるイベントを行い、にぎわいを出してほしい。 ・活気がある町へ。体験教室から担い手へ地元の蒲郡高校への就職斡旋を。商店街出店数が1店舗との事だったので、支援等の充実が必要。 ・蒲郡駅の中で営業していた喫茶店が閉店するなど、空き店舗が目立つ状況がある。新たな創業や後継者に対する支援などが必要。市民を含めた利用者（周辺の市町村など）が何を求めているのかをアンケートなどで反映できるとよい。 ・①蒲郡の産業を周知②人材育成③商店街の活用。など、さまざまな問題がある中で、大切なのは、市民にどのような支援があり、どのようなイベントが行われているか、まず知ってもらうことが必要かと思う。情報発信に工夫が必要かと思う。 ・空き家のマッチングを推進していくことは非常に重要な課題でありつつも、まち全体に魅力がないと希望者も出てきづらいと思うので、イネーブリングシティなどと連携を取りながら、まち全体の魅力の向上も踏まえた対策を期待したい。

⑤今後の方向性

- ・蒲郡在住・在学の若者が、就職や創業で蒲郡市内を選択肢に入れるよう教育や支援策、イベントに今後も力を入れて頂きたい。
- ・後継者育成を考えているため期待したい。
- ・高校や大学などコンソーシアムによる連携強化の必要性を感じる。インターンなど市内企業との連携によるプロジェクト創出など環境整備プラスαを検討されるなど産業振興目的以外との関係性に期待したい。
- ・次代を担う人材の育成も実施しているので、地場産業の担い手や空き店舗の活用・再生など活気あふれる町に向けて、新規事業を考えている方に創業促進する。
- ・三河木綿の後継者の育成が早急な課題。市内の小中学校の体験教室も継続して、SNSなど全国からの支援策を求めたり、関心のある方とのマッチングもできるとよい。
- ・商工会議所とも連携して、創業塾など取り組んでいるが、高齢化などで事業継承が課題。後継者が決まっている場合でも、早めに継承して一緒に事業をすると気づくことも多く、課題も見えてくるので、先代が現役のうちに継承の流れをスムーズに作れるように支援していけると理想だと思う。
- ・人と人、空き店舗と人、会社と会社をつないでいくサポートが必要かと思う。情報発信は不可欠で、必要な人に届く工夫が大切だと思う。
- ・事業承継や創業に対する体制の構築はもちろんのこと、振興会やまちづくりなどで活動する団体と協力しながらエリア全体の魅力を高め、攻めの姿勢での取組を期待する。ごりやく市は一時的なにぎわいづくりに寄与しているので、恒常的なにぎわいに繋がる取組を期待したい。